



テクニカルレポート2019-2020発刊にあたり

皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに、ニックステクニカルレポート2019-2020をお届けいたします。2018～2019年度に発注者の皆様からいただいたお仕事を中心に、知見となるものをピックアップして取りまとめました。弊社はまだまだ技術研鑽中の段階にありますが、何卒ご笑納いただければ幸いです。また引き続き京都大学の藤井聡先生に寄稿いただいております。今回は「MMTが日本を救う」として、今後の日本の財政政策のあるべき姿について述べられています。MMTについては近年急速に日本国内で論ぜられるようになってきました。我々建設コンサルタントにとっても発注者の皆様にとっても無関係な内容ではありません。是非ともご一読いただければ幸いです。

その他、弊社のコンサルタント重点3事業分野である、ストックマネジメント事業、防災・減災事業、低炭素社会づくり事業、さらにはICTに関する取組みの中から、代表的な事業を取り上げております。今後もさらなる技術の研鑽を積み、社会インフラの調査・設計において、迅速かつ効率的な執行に微力ながら貢献していきたいと考えております。

最後になりますが、本レポートの題材となる機会を与えていただいた発注者の皆様に感謝を申し上げ、また弊社とお関わりのある全ての発注者の皆様のご発展を心より祈念申し上げ、略儀ながら御礼の言葉といたします。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

2020年2月

(株)新日本コンサルタント 代表取締役社長 市森 友明

まえがき

NiX Technical Report 2019-2020

テクニカルレポート2019-2020

表紙について

弊社は、これまでに道路橋（桁橋、トラス橋、アーチ橋、ラーメン橋、吊り橋、斜張橋等）、水路橋、歩道橋、鉄道跨線橋など3,700橋以上の多種多様の橋梁の点検調査を実施してきました。今まで点検調査を実施した橋梁には、橋長100m以上の長大橋と言われる橋梁も含まれます。また、道路法施行規則（昭和27年8月1日建設省令第25号）の改正（平成25年9月2日）により、5年に1回の点検並びに近接目視（触診並びに打音等が可能な距離での目視）点検が義務化されたことから、ロープワーク等による近接目視点検にも対応するとともに、自社保有2台目となる橋梁点検車（SF-77型）の導入も行い、緊急時の点検調査にも対応可能となりました。現在、将来の実用化を目指し、橋梁点検・詳細調査等先端技術の導入研究、高度解析技術の取得に取り組んでいます。

特別寄稿	MMTが日本を救う 京都大学大学院教授 藤井 聡	3
防災・減災	河川構造物の三次元設計紹介および従来設計に対する優位性と課題 インフラマネジメント事業本部 開米 浩久 / 大野 晴子	7
ストック マネジメント	高速道路を跨ぐ歩道橋の床版取替（なぜ補修設計が床版改築設計になったか） 首都圏技術部 丸山 貴弘 / 横田 真育	9
ストック マネジメント	ハイピア橋脚における大型点検車の代替手法としての特殊高所技術の導入について インフラマネジメント事業本部 上坂 光泰 / 津本 良明 / 柚木 創	13
注目トピックス	富山型フロントローディング都市経営による企業行動の変容—富山から問う、土木のちから— 代表取締役社長 市森 友明	15
	会社概要	17